

ウガンダの公立小学校と私立小学校における 教育の質の比較

指導教官 國島正彦 教授

47-096793 白川 佑希

キーワード：ウガンダ・教育の質・アカウンタビリティ

1. 序論

1990 年にタイのジョムティエンにおいて「万人のための教育（EFA: Education for All）」が決議され、全ての児童に基礎教育を提供することが世界共通の目標として国際的に認識された。ウガンダでは他のアフリカ諸国に先駆けて 1997 年に UPE 政策が導入して以来積極的に教育改善に取り組み、就学児童数が大幅に増加したが、近年公立小学校における質の低下が問題視されている。同時に、近年私立小学校の就学者割合が増加する傾向にある。ウガンダ政府がこれまで力を入れてきた初等教育無償化政策が保護者のニーズに合ったサービスが提供できていないことを表していると考えられる。「アクセスの拡大」という教育改革の第一段階を乗り越えた公立小学校を、児童にとって意義のあるものにし、保護者に選択されるものにする方策が必要であると言える。

先行研究では、ウガンダの公立小学校の問題点を指摘する論文は多く見られるものの、ウガンダの私立小学校の実態や公立小学校との比較を行った研究はごく少数である。

2. 研究の目的

本研究は、保護者の評価の高い私立小学校と、公立小学校の教育の質の共通点と相違点、保護者が「教育の質」のなかで重視する項目を整理し、ウガンダの公立小学校が今後優先的に改善すべき項目を明らかにすることを目

的とする。

3. 研究の方法

研究は①文献調査と②インタビュー調査を通じて行った。

①・・・教育開発分野の書籍、ウガンダの初等教育やガバナンスに関する先行研究、UNESCO、世界銀行、ウガンダスポーツ教育省等の資料・報告書をレビューし、議論を整理した。

②・・・ウガンダの公立小学校・私立小学校の保護者に対してインタビューを行い、保護者が学校選択を行う過程とその際重視する項目、意見の表現方法や学校に対する満足度などの調査を行った。

4. 公立小学校と私立小学校の比較

まず、公立小学校と私立小学校に関する制度や学校運営の枠組みを調査・整理した。

次に、先行研究や各種国際機関の報告書を基に「ウガンダの小学校における教育の質」の指標の作成を行い、各種データを用いて公立小学校、私立小学校における各指標の検証を行った。教育の質は、児童の学力、クラス規模、教員の質、内部効率性、アクセス、保健衛生、保護者の学校への貢献、アカウンタビリティ、行政による監理の 9 分野に分類した。

5. 保護者の優先項目

ウガンダ共和国 Rakai District Ngereko

Parish において、公立小学校の保護者、私立小学校の保護者、公立から私立へ転校させた保護者に対して、「小学校選択において重視する項目」等のインタビューを行った。

5. 考察

データとインタビューで得られた結果を「ウガンダの公立・私立小学校における教育の質」の指標に当てはめ、考察を行った。

	教育の質	指標	データ・インタビューから判る実態		保護者の重視度			
			公立	私立	公立 考慮	公立 優先	私立 考慮	私立 優先
①	児童の学力	授業への出席率	私立の方が高い					
		進級試験の成績	情報なし		2	3	1	4
		PLE の成績	私立の方が高い		3		5	
②	クラス規模	教師：児童比率	1：5.6	1：2.9	2	5	8	
		教室：児童比率	1：7.8	1：4.2	2		6	5
		教科書：児童比率	1：5	情報なし	3		7	
③	教師の質	能力不足	全員資格有	資格の無い教員も	2	2	3	1
		熱意不足	熱意低い	熱意高い				
④	学習の持続性	留年率	情報なし				8	
		進学率	情報なし				8	
		卒業率	情報なし		3			
⑤	アクセス	学校と家の距離	情報なし		1	1	2	2
⑥	保健衛生	給水	情報なし		3	4	6	
		衛生設備（トイレ）	情報なし					
		給食の有無	少ないが、改善の兆候あり	少ないが有	4			
⑦	学校への貢献	授業料	無料	有料	3	4	4	3
		資金・労働などの要求の有無	有	有	2	4	7	
⑧	アカウントビリティ	保護者と学校側の会合の有無	有	有	3			
		保護者の意見の反映の有無	反映少ない	反映多い				
⑨	モニタリング（行政官/理事長）	モニタリングの有無	情報なし	理事長				
		モニタリングの頻度		厳しい監理				

教育の質を総合的に比較すると、全体的に公立小学校より私立小学校の教育の質が良いという結果になった。公立小学校を選択する保護者は「公立小学校であること」、「授業料がないこと」を最優先にしており、その範囲内で、「教師の質」や「児童の学力」の良い学校を選択していると考えられる。一方で、私立小学校の保護者は、公立・私立小学校全体のなかで、「教師の質」や「児童の学力」を比較している。また、公立・私立小学校のほとんどで保護者会が行われていたが、私立小学校では多くの意見が反映されているのに対し、

公立小学校では殆ど反映されていなかった。

6. 結論

①学校選択段階において公立小学校選択のインセンティブを増やすには、教師の質が非常に重要であり、公立小学校から私立小学校への転校を防ぐには、保護者の意見の反映が重要であると言える。

②小学校の保護者は、進学試験の成績を非常に重視する傾向にある。

7. 主要参考文献

Ikuko Suzuki, 2002 "Parental Participation and Accountability in Primary Schools in Uganda" Compare, Vol. 32, No. 2

Uganda, the Ministry of Education and Sports (MoES), 2009 "The Uganda Educational Statistics Abstract"

UNESCO, 2005 "EFA Global Monitoring Report- Education for All THE QUALITY IMPERATIVE"

UNESCO-IBE, 2010 "World Data on Education Seventh edition 2010/2011;Uganda"

国際協力機構（JICA）調査報告書、2007「アフリカにおける地方分権化とサービス・デリバリーー地域住民に届く行政サービスのためにー」

笹岡雄一・西村幹子、2007「低所得国における教育の地方分権化ー初等教育普遍化（UPE）政策との矛盾ー」『国際開発研究』第 16 巻第 2 号 21ー33 頁